



第15回しんぶん感想文コンクール 小学部4年 谷口千畠さん県知事賞受賞

琉球新報社主催 第15回しんぶん感想文コンクールの審査会が11月30日に行われました。県知事賞をはじめ、上本部学園からたくさんの入賞者が出了したので紹介します。

沖縄県知事賞：小学4年 谷口 千畠さん 琉球新報賞：小学5年 平安山 愛菓さん

東洋水産賞：小学1年 仲宗根 唯乃さん ぬちまーす賞：小学1年 上間 珠莉さん

奨励賞：小学4年 仲村 碧翔さん

入選：小学1年 山内 鳩さん 中学2年 仲宗根 妃那さん 中学3年 上間 優愛咲さん



県知事賞：谷口 千畠さんの感想文「繁栄願いハーリー」を紹介します。



「ハーリー楽しそう、やってみたいなぁ。」この記事を読んだわけは、国頭村辺土名区の繁栄を願い、区がハーリーや道ジュニーを開催したことが、地域を盛り上げることにつながるいい行事だな。と思ったからです。

僕が一番、目についた言葉は「公民館前集落拝所の世神の宮などで、区の繁栄と五穀豊饒、無病息災、豊漁、行事の無事を祈願。」という言葉です。辺土名区の畠から作物が多くとれ、区民の健康と安全を祈り、みんなで平和で豊かな区にしていこうと考えて開催したのだろうと思います。

記事の写真を見ると、学童野球チームの選手がライフジャケットを着て、木製のかいを手に笑顔でハーリーをこいでいました。10名が乗っているハーリーをこぐのはきつそうなのに、とても楽しそうに競争していました。残念ながらレース途中で雨が降ってしまい、中止にしたそうですが、その後、各支部公民館に集まって、アブシバレー行事で親睦を深めたそうです。コロナ禍で集まれなかった分、久しぶりに皆で地域行事に参加し、区民同士の交流を深めることができたのだろうと思います。

この記事をお父さんに話すと「人と人のつながりがコロナや時代の流れできはくになっていく中で、地域住民がハーリーや御願バーリーを通して交流を深めていることは、みんなが助け合って地域で生きていく上で大事な行事だと思う。」と言っていました。

お父さんの言うつながりのきはくとは、人と人のつながりが切れてしまうことを言っていると思います。自分の住んでいる地域で互いに支え合って、つながって生きているからこそ、このような地域行事は大切に続けていった方がいいです。

今年の夏、僕は美里青年会のエイサーを間近で見る機会がありました。迫力ある演技と太鼓の音がとても勇ましくかっこよかったです。大人の中に子どもも数人混じって踊っていましたが、エイサーを踊る人も見ている人も、心からエイサーを楽しんでいることが伝わってきました。

人は人に助けられたり、助けられたりして生きています。御願バーリーやアブシバレーといった地域行事を通して、つながりを保ってきた辺土名区がこれからもっと繁栄していってほしいです。そして僕も来年の運動会で初めてエイサーをするので、しめ太鼓を持って踊ることをとても楽しみにしています。地域行事・文化がこれからも未来に残り、人と人をつなぐものであって欲しいです。僕もエイサーとハーリーといった、地域行事に積極的に関わり、未来につながるようにしたいです。

